ゴミ箱の気持ち

三代渡吉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ゴミ箱の気持ち

【Ｎコード】
Ｎ５２３２Ｆ

【作者名】
三代渡吉

【あらすじ】
こんなことを思っているかもしれないし、違うかもしれない。

僕はゴミ箱。
公園に置かれたゴミ箱。
今日もオジサンやってきて、臭い臭いお弁当の空き箱を捨てていった。
でもそれが僕の仕事。
ほら、朝になるとちゃんと業者さんがきて、僕に溜まったゴミを処理してくれる。
最近はそういう人がきてくれないゴミ箱もいるらしい。
だから僕は幸せな方だと思う。いつもスッキリして朝を迎えられるのはいいことだもんね。
それでも、ワガママかもしれないけど、僕にだって不満はあるんだよ。
僕は公園にあるから、みんな適当にゴミを捨てていくんだ。
ほらまた捨ててった。今度はくさーいビールの缶だ。
僕は燃えるゴミなんだ。缶は隣の缶専用にいれてくれないと困るよ。
業者の人だって、そういうのを見ると悲しい顔をするんだ。
だから、今度からは気をつけてね。今から投げ返すから、いくよー。
ぽいっ。
かんっ。
あ、気絶しちゃった……だ、大丈夫だよね？　ぼ、僕は悪くないもん。
おや、今度は子どもがきたぞ。きっと僕を揺らして遊ぶ気だ。
遊んでくれるのは、本当はすごく楽しいんだけどね、ゴミが溢れたら大変なんだよ？　だからもうやめてね。

……お説教する前に飽きちゃったみたい。子どもって残酷だなあ。
うーん、ちょっと切ない。
お、今度は若い人がきた。何か抱えてる。
ゴロン。これはなんだろう？
あ……これ赤ちゃんじゃないか！
コラー！
生ゴミは家庭のゴミでしょうがあー！
僕に捨てるなー！

（後書き）

ずっと投稿作品ばかりやっていたので、リハビリに一つ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5232f/

ゴミ箱の気持ち

2010年12月10日08時01分発行